

学術研究実績報告書

申請書との変更点およびその理由(内容、日程、実施場所、参加者等で変更があれば記入)

なし

研究実績概要

研究代表者(申請者氏名・所属機関・職名):

小関珠音

共同研究者(氏名・所属機関・職名):

研究課題名:

大学発ベンチャーの創業過程に関する研究—技術の性質に合わせたビジネスモデルの構築—

研究期間: 2021年 7月 1日 ~ 2023年 6月 30日

概要:(1,000字以内で記述)

本研究は、大学発ベンチャーは、どのような社会的・経済的価値を創出することを目指し、どのように創業する/されるべきか、を研究課題として設定し、複数の事例研究を実施した。この研究課題に至った背景には、既存のベンチャーキャピタリストを中心とする支援システムに対する問題意識がある。

一般的に、ベンチャー育成のエコシステム形成は、ベンチャーキャピタリスト等の投資家の関与に依拠している。その投資家は、投資期限内に収益を確保することに貢献する事例(イグジット)を成功と認識し、ベンチャー企業の評価軸として、資金調達過多(ユニコーン)、株式上場/M&A などによるキャピタルゲインなどに注目する。しかし、本来の大学発ベンチャーの目的は、先端科学技術の社会普及であり、長期にわたって価値が醸成され、様々な産業に波及し、かつ、一般社会を含む幅広いステークホルダーに貢献することが期待される。つまり、投資家のみならず寄与することが求められているわけではない。

そこで本研究では、事例研究として、大学発ベンチャーへの経営に関するアクションリサーチを実施し、この研究課題に取り組んだ結果、以下の知見を得た。アントレプレナーは、起業にあたり、また経営を進めるために、地理的、制度・政策的、社会的、組織的、産業・技術的、時間的な様々な要素に影響を受け、それに対応しなければならないが、投資家がそのすべてのスキルを持っているわけではないことである。したがって、ベンチャー企業には、様々なスキルを持つ支援者が、事業の進捗にあわせて、時には支援当事者が有機的に連鎖するなどして、事業に必要な知識や経験が供給されなければならない。今後も、これらの知見をもとに、継続的にアクションリサーチによる研究を実施する。

* 研究実績概要は「野村マネジメント・スクール研究助成実績報告書」および財団ホームページに掲載します